

令和5年度 租税教育活動プレゼンテーション一覧

＜最優秀賞＞

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
福 岡	<ul style="list-style-type: none"> ○佐世保（長崎） ○中学3年生 ○2中学校3クラス 60名 	<p>【租税教室（大学生との共催）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎国際大学(人間社会学部)の浦郷ゼミと「地域がつながる 未来へつながる」と題した新たな租税教室を創出。 ・大学生に青年部会役員が税知識を教え、その知識を基に学生がゼミで税に関する研究を行い、学生たちが創造した租税教室を実施。 ・法人会は将来的な租税教室の担い手創出、学生は広範かつ正しい税知識の習得、中学生は世代の近い大学生からの授業で親近感や共感を得られるといった様々な効果など、地域・世代を繋ぐ租税教育体系の構築ができた。

＜優 秀 賞＞

*掲載順番は局連順です

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
東 京	<ul style="list-style-type: none"> ○木更津（千葉） ○中学3年生 ○中学校5校 17クラス532名 	<p>【租税教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省推奨の「アクティブラーニング“考え議論する”討議形式」での租税教室を実施。 ・授業は「もし教育に税金が使われなくなったらどうなるのか？」をテーマに生徒自身が考え議論する討議形式で実施。 ・青年部会員は講師の他、コーディネーターとして討議をサポート。生徒自身も普段の授業とは異なる討議形式のため、全員が関心を持って積極的な議論が展開された。 ・学校からも大変好評であり、今後も継続して実施予定。
熊 本	<ul style="list-style-type: none"> ○都城（宮崎） ○小学校5～6年生 中学1～3年生 ○教室参加人数 30～40名 (累計1393名) 	<p>【SNS 租税教室～子供たちの未来のために、今出来ること～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインのイベントが制約される中でも、子供たちに来ることを模索し、SNSによる租税教室をスタート。 ・オリジナルキャラクター租税戦士セイバーのTikTokアカウントを開設し、税に関する様々なメッセージを込めたショートムービーを展開。 ・自宅でも隙間時間に視聴できることや、セイバーがリアルな教室へ登場することで、SNSと租税教育の循環を生み出した。

<奨励賞>

*掲載順番は局連順です

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
東 京	○麻布（東京） ○小学6年生 ○5クラス180名	<p>【租税教室 進化物語～全国青年部の力を借りて～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会(青年の集い)で出会った皆さまと交流を持ち、意見交換することで租税教室を大きく改善することに成功。 ・その中で子供たちが活発に議論し、税金の大切さを自ら発見してもらう人生ゲーム・街づくりゲームを開発できた。 ・学校や税務署にこのゲームを紹介し時限を増やしてもらえたことで、他の単位会と合同で行う事も可能となった。 ・今後も出会った単位会の皆さまとの縁を大切に、租税教育活動の改善を続けていきたい。
関東 信越	○前橋（群馬） ○前橋市内 小学6年生 ○27クラス 764名	<p>【租税教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・租税教育推進協議会からの講師派遣要請による租税教室と女性部会主催の絵はがきコンクールとの相乗効果の期待。 ・初期の取組みは平成22年1校1コマから始まり、現在では税制委員会を中心に15校20コマまで増。 ・当会の考えは租推協からの依頼事項である『基礎教育の一環』から逸脱せず、他団体と足並みを揃えての継続実施。 ・青年部会50歳の卒業に伴い年々講師経験者は減少するが税制委員会で毎年講師を育成しながら実施校数と教育内容を維持。これらの課題を克服し実施校数の拡大。
札 幌	○札幌西（北海道） ○札幌市内 小学校6年生 ○14クラス 650名	<p>【地元愛を育む「どさんこ租税教室」の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税の本質をより理解してもらうため、北海道・札幌の税金の使われ方を多く取り入れ、従来の租税教室を刷新。 ・「地域と私たちをつなぐ税」をテーマに居住する街の税を深く知ること、地元をもっと好きになってもらいたいとの想いで『北海道LOVE・どさんこ租税教室』を開催。 ・地元札幌市の税金の使い道を子どもたちに考えてもらうワークショップを導入。子どもたち+講師+けんた君の三者で進める「教える」から「一緒に学ぶ」租税教室を展開。 ・参観形式を取り入れ、自宅に持ち帰れる租税教室にした。

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
仙 台	○弘前（青森） ○小学6年生 並びに一般市民 ○3クラス88名、 一般市民約500名	【地域密着弘前版 租税教室～楽しく学ぼう税金クイズ～】 <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが講師の説明を聞くだけの授業スタイルから、子供たち自ら考え身近に感じてもらうため、私たちの住んでいる街を題材にした授業に変更。 ・身近な施設やサービスの中でどこに税金が使われているのかを子供たちにグループワークで話し合ってもら参加型の授業にリニューアル。 ・一般市民向けには歩行者天国でブースを設け税金クイズや1億円重さ体験を実施、クイズの正解数に応じて景品を差し上げるなど、毎年大勢の親子連れが来訪。
名古屋	○多治見（岐阜） ○高校生 ○中京高等学校 1クラス20名	【高校生向け租税教室～海外と比較してわかる税金の使われ方 誰が使い方を決めているの？～】 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象の租税教室は継続しつつ、これから成人し社会に出て実際に税金を納める立場になる高校生を対象に、税に対する関心と責任を持つきっかけとなるオリジナルの租税教室。 ・「海外と比較してわかる税金の使われ方 誰が使い方を決めているの？」と題し、主要な5種類の税金を5つの国で比較しながら税金シミュレーションを行い、グループ討論を交えた50分の授業。 ・より良い社会の仕組みづくりに自分ができることを考え、意見を発信できる若い世代を育成する、法人会の真の目的を追求した取り組み。
金 沢	○坂井（福井） ○坂井市立 高椋小学校6年生 ○2クラス63名	【租税教室】 <ul style="list-style-type: none"> ・青年部会員の1日を通じて、幾つの税金を払うかを披露。 ・「マリンとヤマト不思議な日曜日」のDVD鑑賞、税金のある社会と無い社会の変化について問いかける。 ・生徒にとって一番大事な学校と税金について問いかける。 ・簡単なクイズの実施。 ・最後に、教育に小中高で一人当たり1千万円、10人では1億円掛かることの重みをダミーの1億円を持って体感。

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
広 島	○尾道（広島） ○小学6年生 ○2クラス56名	<p>【財政の視点を取り入れた租税教室の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常行っている租税教室に「財政」の視点を取り入れた特別授業を実施。 ・事前学習で地域の「課題」や「魅力」を子供たち自身に抽出してもらい、架空の村（今回は土堂小学校の土堂村）の予算づくりをグループワークで体験してもらう。 ・限りある予算の中で実現したい政策をグループごとに考えてもらうことで、「色々な意見や価値観がある中で、物事をひとつに決めていく営み」が財政であり政治であることを学ぶきっかけとした。
高 松	○伊予西条（愛媛） ○小学6年生 ○21校 40クラス 2,078名	<p>【講師、先生、子ども達と一緒に学ぶ租税教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ知識を伝えるだけでは実は伝わっていないのではないか？何か身近に感じられる伝え方はないかと試行錯誤。 ・講師は地元の経営者や自営業者であり、子ども達の親でもあることから、一方的に伝える教室ではなく、その役割と個性を活かし「講師、先生、子ども達と一緒に学ぶ租税教室」を展開。 ・愛媛県出身の落語家「らくさぶろう氏」を講師に迎え、落語を交えた「税」の講演会を開催し、親子や家族と一緒に楽しめる取り組みも実施。